

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里中学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の各領域を横断した問題を出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

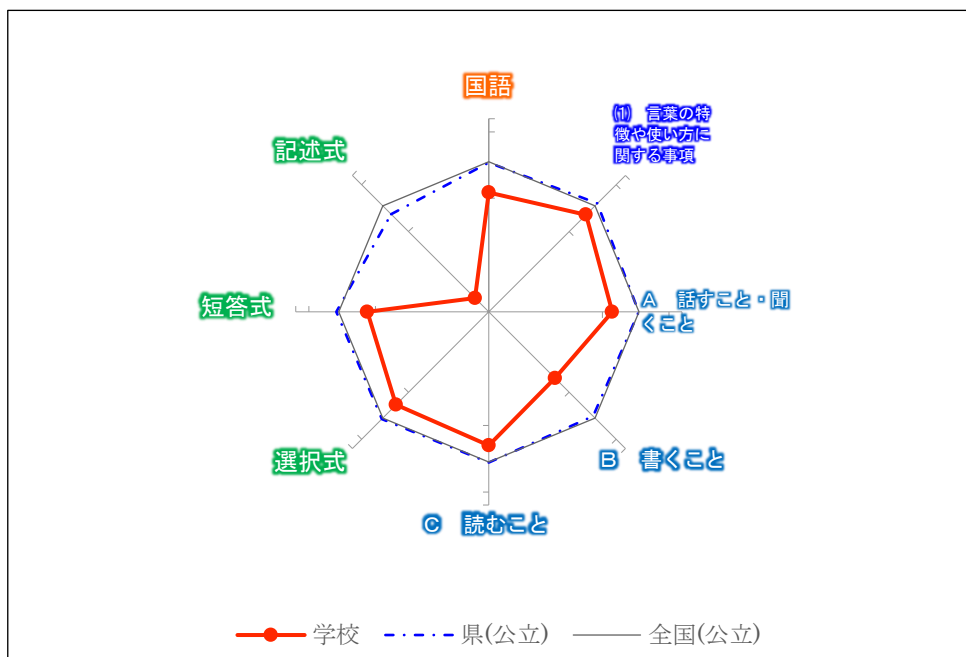
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



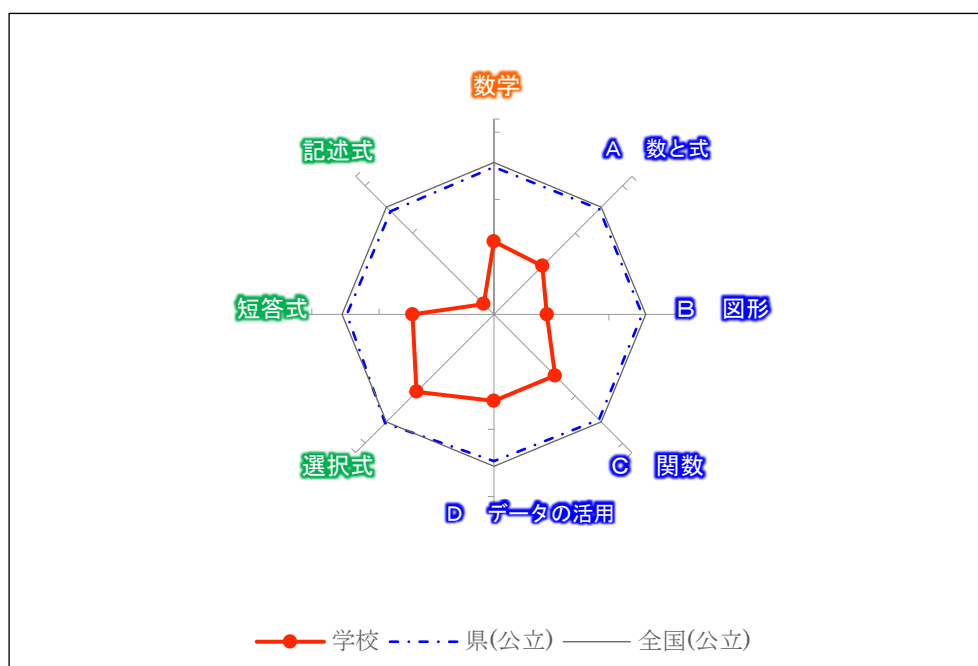
【特徴と現状】

- ・本校と全国平均の比較において、本校の正答率は・9 ポイント低い結果でした。
- ・国語の基礎技能のうち「書くこと」の正答率が低い結果となり、さらに問題形式の中でも「記述」の形式において著しく低い結果となりました。
- ・本校生徒の解答は記入した結果で「誤答」するよりも、無記入のまま解答をする「無回答」の割合が高く、全国平均を上回っています。さらに、その中でも、自分の考えを表現する設問になると、無回答率が増加していました。
- ・授業中では意見交換をする場面はありますが、生活様式の変化により文字を書く機会が授業の中でも減少していることも書くことが低下している要因の一つとして挙げられます。
- ・本校の生徒は、自分の思考を話すことや書くことでなどで言語化して表現することを苦手とする傾向にある生徒が多くいることが課題であるといえます。

【改善方策等】

- ・記述式の対策として、基礎知識や漢字の習得のための小テスト、語彙を増やすための意味調べなどを系統的に実施します。
- ・文章の内容を捉える力は比較的定着しつつあるので、構成や展開の流れを意識し、文章の要約に取り組んでいきます。
- ・「学び合い学習」の中で、自分の考えを発表する機会を増やし、概要を明確にして伝えたり、書いたりできるように指導を行います。
- ・授業のまとめに振り返りとして、学習した内容を文章でまとめることを継続して指導します。
- ・本校では、各生徒が各自でノートを準備して家庭学習を行っています。国語を自学で行う生徒は比較的少なく、行っているとしても漢字やワークが中心です。読み取りは比較的得意とする一方、自分の意見を書いたり話したりするなどして表現することを苦手としている生徒が多くいるため、授業を中心に表現活動を行い、書くなどの力を養っていきます。

数 学



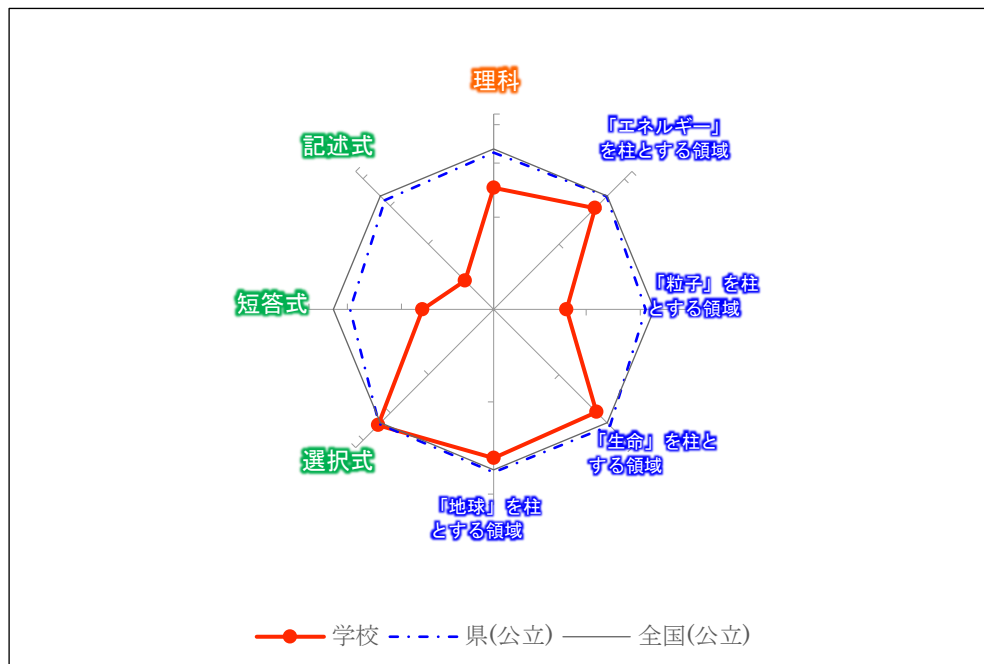
【特徴と現状】

- ・本校と全国平均の比較において、本校の正答率は-18 ポイント低い結果でした。
- ・例年と比較しても、数学における全体的な基礎学力が低下していることがわかりました。
- ・他教科と同様に、「記述」の項目が著しくポイントが低くなりました。
- ・例年では、系統だって指導できる「関数」が一定の水準を保っていましたが、今年度はポイントが低くなっており、生徒に基礎学力が定着していない可能性があります。
- ・本校生徒の解答は記入した結果で「誤答」するよりも、無記入のまま解答をする「無回答」の割合が高く、さらに「解答を諦めてしまうことがあった」という結果が5割を超えていました。
- ・本校の生徒は、数学の基礎学力が不足しており、さらに文章の読み取り、解答を導き出す力の育成が課題であることがわかりました。

【改善方策等】

- ・基礎基本の定着を確実にを行うため、基礎的な計算ドリルを繰り返し行うことで習熟を図ります。
- ・少人数学習の利点を生かし、きめ細やかで的確な指導を行い、確実に理解を深めさせます。
- ・中学校入学時点で、算数にかなりの苦手意識を抱えている生徒が多くいます。算数に苦手意識がある生徒は、数学だけでなく他教科の計算分野でも負の影響を及ぼすことが考えられ、生徒本人たちも苦手意識が強まる負の相関関係にあります。この苦手意識を改善するためにも小学校と連携を図り、九九や四則計算の定着の呼びかけを協力して行っていきます。
- ・基礎学力の定着のみならず、学習した内容を使って問題を解くような応用問題にたくさん取り組む機会を多く設けていきます。基礎を学び、基礎を使うことで学力の定着を図ります。

理 科



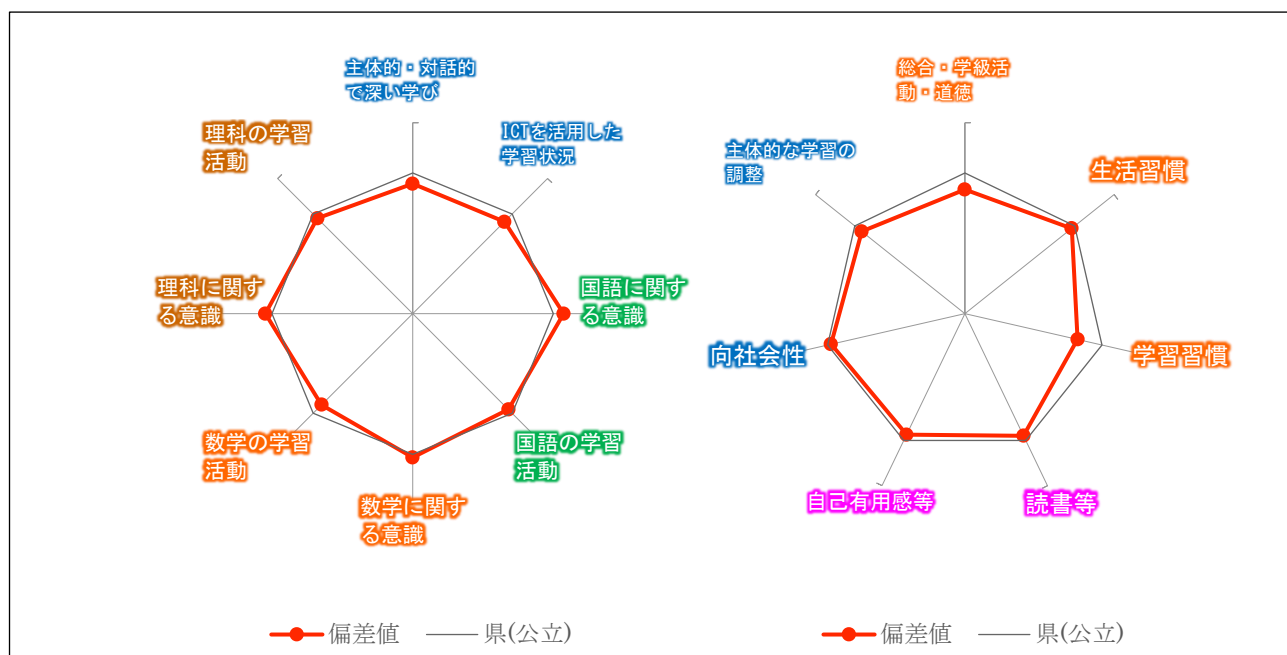
【特徴と現状】

- ・全国平均と比較すると、本校の正答率は全体的に－12 ポイント低い結果でした。
- ・各分野のうち「粒子」の分野でポイントが低くなりました。
- ・化学反応を化学反応式によって表記することはできている生徒も多いですが、分子や原子などの目に見えない物質の状態が変化する概念的理解に課題があることが考えられます。
- ・記述において他教科同様に、正答率が低い傾向にあります。
- ・今回の調査では、日常生活における経験を問われる問題が出題されました。これらの分野の正答率が低いことから考察すると、授業などで身に付けた知識と日常生活における経験を関連付けて考え、科学的に考える力を高めることが課題であると考えられます。
- ・本校生徒は、各分野の基礎的な学力が未定着の傾向にあります。
- ・生徒質問紙から、本校生徒では、授業などで身に付けた知識が「将来役にたつか」という質問が他教科と比較すると低い傾向にあり、授業中に科学的に探求する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高める必要があります。

【改善方策等】

- ・基礎基本の定着を行うために、細かく確認テストや補足プリントを配布し、繰り返し取り組んでいきます。
- ・理科の授業では、実験や観察を行うことで、共同作業が授業中に多くあります。その中で、主体的な学びが展開されており、理科の授業は高い理解度を示しています。今回の調査から、それぞれの計算や公式は理解しているものの、グラフの読み取りやその意味を理解し計算することを苦手としていることがわかりました。グラフの読み取りは、理科では必須な事柄であり、授業中に丁寧な解説をしながら、問題に取り組ませていきます。
- ・実験の原理や理論を学習するだけでなく、まとめの際に、身近な例を紹介すると共に、科学の功罪も含めて考えさせる時間をとることで生徒の興味関心を高めさせ、主体性を育てていきます。
- ・自分の考えを文章に起こすことを苦手とする生徒も多くおり、順序だてて文章を書く指導を継続的に行っていきます。

(3) 生徒に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- ・ほとんどの項目で、やや低い水準の項目もありますが、ほとんどは全国平均と同じ水準という結果になりました。
- ・自己有用感・向社会性も全国水準と同程度であり、本校生徒特有の「人の役に立ちたい」「困ったときは誰かに相談している」という気持ちがある生徒が多いことがわかりました。
- ・学習習慣の項目のポイントが低く、家庭での勉強時間が0～1時間の割合が5割を超え、中でも30分よりも少ないと答える生徒が4割いることがわかりました。
- ・通常の授業では、教科担任と生徒との人間関係が良好な授業が多くあり、授業中の雰囲気も良い学級が多い。日ごろの教科担当の取り組みの成果といえます。
- ・本校の生徒は、授業中の取り組みは良いが、家庭での学習となるといまだに定着がされていないことが示唆され、家庭での学習の習慣の定着が課題といえます。

3 まとめ

- ・今回調査が行われた3教科に関して、本校では各教科が「好き」という回答と、「授業がわかる」という回答は、全国平均を大きく上回る結果でした。
- ・本校生徒は、学校での授業への取り組みは自己評価も高く、実際の取り組みは素晴らしいものがありますが、自主学習となると平日に3時間以上学習している生徒はわずかしかおらず、5割以上の生徒は0～1時間の学習時間であることがわかりました。
- ・今回の3教科はいずれも全国平均を下回る結果となり、各教科で改善が必要です。各教科でそれぞれ課題はありますが、共有しているのは、自分の考えを話したり書いたりして自己表現する力が課題であるということです。
- ・本校では、今回の調査を鑑み、管理職・教務・研究主任・各教科主任、学習指導部と連携を図り、教科書の読み込みによる基礎学力の定着、授業改善や家庭学習の習慣化に取り組み、学力向上を図ります。